

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名 詩を楽しもう

2 単元の目標

言葉の響きやリズムから詩の情景を想像し、音読することができる。

3 本時の学習

(1) 目標

言葉の響きやリズムから想像した情景が伝わるように音読することができる。

(2) プログラミングを取り入れる効果

「しんしんしんしん」が表す様子をプログラミングすることにより、詩のイメージがより豊かになり、音読の工夫につなげることができる。

(3) 展開

学習活動	指導上の留意点（※評価）
1 前時に学習した詩を振り返り、本時の詩を音読する。	・前時の学習から、どのようにイメージを広げて音読の工夫につなげたのかを振り返ることで、本時の学習への意欲を高める。
詩の様子を想ぞうし、イメージをふくらませて音読しよう。	
2 詩の情景をプログラミングによって表現し、発表する。	・「しんしんしんしん」は、雪がどのように降っているかを問いかけたり、周りにはどのようなものがあるかを問いかけたりすることで情景を想像させる。
3 「しんしんしんしん」の読み方の工夫を考える。	・「しんしんしんしん」が表す様子を、全体で共有した後、班ごとに読み方の工夫を考えさせる。
4 グループごとに音読を発表し、感想を伝え合う。	・イメージを膨らませることで、詩の情景がより豊かに伝わるようになることを確認し、今後の音読への意欲を高める。 ※言葉の響きやリズムから想像した情景が伝わるように音読を工夫している。

(4) 評価及び指導の手立て

「十分満足できる」と判断できる状況	声の強弱、大きさ、速さ、読み方の形態などを工夫して、「しんしんしんしん」が表す様子がよく分かるように音読している。
「おおむね満足できる」状況にするための手立て	音読を工夫するときの観点を示し、プログラミングによって膨らませた言葉のイメージを音読として表現するにはどうすればよいのかを考えられるようにする。



【授業の概要】

本単元は、言葉の響きやリズムから詩の情景を想像し、音読することを目標とした。初読させた後、どのように読めば詩のイメージがより伝わるのかを問い、「しんしんしんしん」の表す様子を音読で工夫するというめあてをもたせた。しんしん降る雪の様子をプログラミングによってイメージ化させた後、グループで音読を工夫した。最後にグループごとに発表し、工夫したことやよかったことを伝え合った。



【プログラミングを取り入れた効果】

本授業では、雪が降る様子をプログラミングすることにより、情景をより豊かにイメージし、音読の工夫につなげることをねらいとした。



児童からは、「プログラミングすると、雪が降る様子がよく分かって音読の工夫ができた。」という声があがった。プログラミングをする過程において、児童は、雪の大きさ・降る速さ・連続性に注目し、「小さな粒が、ゆっくり、次々に降ってくる様子」を表現しようとしていた。中には、「ゆらゆら揺れながら降ってくる様子」を表現している児童もいた。イメージを膨らませた後、班ごとに音読の工夫について考えた。ゆっくり降る様子を読む速さで表現したり、次々に振る様子を1人ずつ交代で読んだり、リズムよく読んだりして表現することができた。さらに、振ってきた雪が溶けてなくなっていく様子表現しようとだんだん声を小さくしたりするなどの工夫も見られた。



雪が止まったまま動かなくなったり、横に動いたりし、言葉のイメージとかけ離れた場合もあったが、教師に助言を求め、改良することができる児童もいた。今回の授業では、雪の粒をクリックした点で作るだけにするなどし、「雪がどのように動くか」に焦点を絞ってプログラミングさせるような工夫が必要であった。

【授業を終えて】

プログラミングをする前は、抑揚なく詩を音読する様子が見られたが、雪の降り方をプログラミングすることで、どのグループも、さまざまな工夫をして読むことができるようになった。児童の感想からも、言葉のもつイメージを実際に表してみると、視覚的によく分かり、イメージが膨らんだようであった。また、互いにプログラミングしたものを見合うことで、イメージをうまく表現することができなかった児童も、自分の想像していたイメージと合う表現を見つけることができていた。言葉のもつイメージを視覚化することで、イメージがより膨らみ、学習の効果を高める可能性があると感じた。今回は、viscuit を用いて雪を動かすプログラミングを行ったが、使用媒体の利点を生かすことで、学習における学びがより深まるのではないかと考える。

また、雪がしんしん降る様子を「ゆっくり揺れながら降る」と捉えていた児童は、「どうすれば揺れながら降るのか」を考えながらプログラミングしていた。児童が表現したくなるような目的や場の設定を行うことで、自然と論理的に考える児童も出てくるのではないかと感じた。